

かめのり賞活動報告

1. 受賞回数

第 18 回かめのり大賞人材育成部門

2. 団体名

特定非営利活動法人 国際活動市民中心=CINGA
(Citizen's Network for Global Activities)

3. 活動目的

多文化共生社会を日本に根付かせるために公的機関、民間団体などあらゆる団体、個人と連携しながら在住外国人を巡るさまざまな問題・課題を探りその解決を目指す活動をしています。

4. 活動報告

「まあ〜るい地球をつくります」。

これは、CINGA のホームページのフロントに書かれている言葉です。「差別、偏見、格差、貧困、ヘイト、争い、非寛容・・・etc.いま、地球には、ヒトがつくりだしたこれらマイナスイメージの言葉が蔓延し、地球のあちらこちらに凸凹(でこぼこ)を生じさせています」と文章は続きます。

CINGA は、私たち人間がつくったこの凸凹を本来の状態である「フラットな地平」に戻す活動をするために 22 年前に NPO 法人として創設しました。特徴として、弁護士、元企業経営者、医師、臨床心理士、行政書士、社会福祉士、大学教員など多分野の専門家が会員として会を構成していることです。

日本に住む外国人の中には、言葉や社会習慣などの理解が十分ではなく、日々の生活を送るうえでさまざまな問題・課題を抱えている人がいます。そうした人たちを通じて、私たちの社会にある問題・課題がより鮮明に浮き彫りになることもあり、私たちの社会の在処(ありか)を探るために CINGA では、日常的に在住外国人、またその人たちを支える日本人も対象に無料相談会を開催しています。もう一つの活動の柱は、日本語教育の普及を掲げています。

無料相談会では、時には CINGA のメンバーである外国人にも、通訳などとして関わってもらいます。2025 年 12 月 7 日には東京都台東区の協力を得て、台東区民会館で外国人を対象にした大規模な無料相談会を開催しました。これは日常的に行っている相談会とは別に、東京都の「つながり創生財団」に事務局を置く「東京外国人支援ネットワーク」や都内各区の国際交流団体などと協働しながら持ち回りで開催しているイベントで、CINGA も年に一回担当し「外国人のための専門家相談会」として定例的に開いているものです。

当日は、大学生のボランティアや各団体の視察の方も含めて総勢約50人で対応しましたが、約3時間で25件もの相談が寄せられました。弁護士や医師、臨床心理士など9領域にわたる専門家が、8言語の通訳とともに対応しました。この通訳には、CINGAで活動している中国、ベトナム、ネパール、ミャンマー語のネイティブ・スピーカーも参加しました。こうした相談会には、かめのり賞の活動奨励金の一部を充当しています。

CINGAは、さまざまな事業を多くの団体、個人の方の協力で展開していますが、特に外国出身者もメンバーの一員として活動しています。ご紹介した相談会事業以外にも、技能実習生を対象にした母国語相談を外国人技能実習機構から受託しており、ここで活動しているメンバーは、外国出身者が大部分を占めています。活動をしてきた人の中には、それぞれの出身国のコミュニティーなどでメンター的な立場で携わるようになった人たちもいますが、CINGAは今後、そうした人たちが増えるように手助けしたいと考えています。

その事業の一つが、エスニックコミュニティーメンバーが主体的に企画から運営までこなす生活密着型のオリエンテーションです。これから来日して日本で暮らす予定の人たちに対し、渡航前に日本の習慣や食べ物、文化などについて、オンラインで説明します。これにより来日前にある程度の日本の知識を得ることができ、日本での生活に大きな不安を抱くことなく、日本社会に早く馴染み、本来の目的を全うできるよう手助けできます。

オリエンテーションの内容は、その国の人ならではの視点があるため、来日する人たちにとっても非常に役に立つ情報がインプットされます。現在は、ネパール、フィリピン、ウズベキスタンの三カ国を対象にしていますが、今後、対象国を増やすことも考えています。それと同時に、エスニックメンバーも併せてon the job trainingしながらメンター的な立場になるように育成することによって、活動の幅をさらに広げることができると考えています。

家族とともに来日する在住外国人の増加に伴って、子どもたちの教育が大きな課題になってきています。義務教育の期間は、自治体も含めてさまざまな対応策がある程度とられていますが、高校進学については課題があります。在留資格による救済なども国が対策として実施していますが、この制度そのものについての理解度がまだ十分ではありません。こうした問題に取り組んでいる高校関係者らや自治体と協力し、言葉が十分通じない若者にも理解できるような取り組みをしています。この活動にもCINGAのベトナムやブラジルのネイティブ・スピーカーが関わっています。いずれも長年日本に住んでいる人たちで、最新の高校進学制度の情報を取り入れながら、直接高校生やその親、あるいは学校関係者の間に立ってコーディネーターとして活動しています。

このような活動は、自治体、教育関係者らの協力と支援がなければできないことですが、仕組みづくりにも、ネイティブ・スピーカーが直接・間接に関わり、そのノウハウを身につける機会にもなっています。

最近、世界各国でも見られる傾向ですが、日本でも外国人に対する厳しい見方が流布される状況になってきています。事実に基づかない言説は論外ですが、昨今の SNS の普及で、事実ではないこともあたかも事実のように捉えられて、それが真実のように人口に膾炙されることも少なくありません。冒頭でお伝えしましたように地球上にさまざまな凸凹が、まさに増幅されるかのような状況が来ています。

CINGA は、実践的な活動を通じて、これらの凸凹を少しでも減らす活動を地道に続けていきたいと考えています。そうしたなか、かめのり財団から評価されたことは、非常に心強い励ましになっており、感謝申し上げます。ありがとうございました。

活動写真



(左) 台東区で行われた専門家相談会の会場の様子

(右) ネパールコミュニティを対象にしたオリエンテーション



高校進学などのガイダンス